

臨時号  
平成13年(2001)  
11/16(金)



# 小笠原 — OGASAWARA — 村民だより

編集・発行 小笠原村総務課  
〒100-2101  
東京都小笠原村父島字西町  
TEL04998(2)3111  
FAX04998(2)3222

## 小笠原空港建設に向けて 第21号

ホームページアドレス

<http://www.vill.ogasawara.tokyo.jp>

東京都は次のとおり、小笠原空港に関する見解を公表した  
ので、お知らせします。

平成十三年十一月十三日 東京都総務局・港務局

### 小笠原空港の今後の取り扱いについて

小笠原空港については、平成十年五月十九日に時雨山周辺域を建設地と決定し、調査検討を行なってきましたが、このたび下記のとおり「現計画を撤回し、新たな航空路案を検討すること」としたので、お知らせします。

#### 記

#### 1 現計画の撤回

自然環境への影響や事業費の増加などから時雨山周辺域での空港建設は困難であると判断し、現計画を撤回する。

① 環境現況調査の結果、環境省や東京都のレッドデータブックに記載されているムニンツツジなど絶滅危惧種等四十種類の貴重な植物や、オガサワラノスリなど国の天然記念物に指定されている動物（十二種等）が確認された。

この結果をふまえ、学識経験者等により構成される小笠原自然環境保全対策検討委員会からは、影響を被る貴重種が多数あり、保全方策を確実に講じたとしても影響軽減効果には限界がある旨の意見書が提出された。

② 環境保全対策を含めた事業の見直しにより、総事業費が一千百億円を超えること、事業期間についても長期間を要し、完成が早くても平成二十年度以降となる見込みとなった。

#### 2 新たな航空路案の検討

費用・環境・技術面から、新たな航空路案の検討を行なう。

① 既存施設（硫黄島の滑走路など）の利用などを含め検討する。

② 技術開発の動向なども踏まえ、幅広く検討する。

#### 3 その他

現在小笠原諸島への交通アクセスとしては、定期航路のおがさわら丸で約二十五時間二十分年間五十九往復を要する状況である。

なお、平成十六年度に超高速船（テクノスパーライナー）の就航が予定されており、所要時間が約十六時間程度（年間九十二往復）に短縮される。

東京都は、小笠原空港建設予定地の時雨山案白紙撤回の決定と、今後の空港建設に関する考え方を示しました。

このことに対し、小笠原村長より次のように声明を発表します。

### 小笠原空港・東京都決定に対する小笠原村長声明

#### 一、時雨山案の撤回について

小笠原村は東京から千キロの超遠隔離島であると共に、昭和十九年の強制疎開から昭和四十三年の米国からの返還までの歴史的空白があり、その後新たな村づくりに着手した経過の中で、常に空路の確保を悲願とし、強く国及び東京都に要望してきたところである。

このことには、東京都が中心になって各種調査を実施した結果、ジェット旅客機の発着が可能な都営第三種空港の建設が計画され、平成七年兄島を空港建設地と決定した。しかし、その後当時の環境庁はじめ自然科学者からの反対の声が強くなり、再検討の後、父島時雨山を建設予定地として環境調査並びにそれに基づく保全策の検討がなされてきた。

私たち村民は、これまでの流れに異論をほさむことなく、東京都の決定を最善のもの信じ、国の第七次空港整備計画内（平成十四年度まで）での着手という都の約束が果たされることを今日まで待ち望んできたところである。

にもかかわらず、十三日の時雨山案白紙撤回という決定には、無念という言葉では押さえきれないほどの悲しみを覚える。強制疎開から本土の生活を余儀なくされ、返還後、島の復興に携わった多くの先人たちは、空港建設の礎を築き、この世を去った。空路があればどれだけの人たちが安心して暮らしたか、どれだけ島に活気がみなぎっていただろうか。

小笠原諸島は豊かな自然に恵まれ、それを守ることは私たち村民の義務である。しかし、そこには村民の生活が成り立つてこそという前提があり、小笠原空港の建設はその狭間の中で難しい選択であることもよく理解している。それでも、返還から空港建設を村民に約束し、二十三年もの間調査検討を行なった結論が空港建設予定地の白紙撤回ではあまりにも村民を軽んじたものである。東京都は今まで何を検討してきたのか。

事業主体である東京都の決定に従うしかないのは、弱小自治体の運命かも知れないが、時雨山案撤回の理由は開かされても、私たち村民に約束してきたことへの釈明はなく、これまで多くの村民に参加していただいた様々な活動も東京都の決定の前には虚しいものがある。

小笠原村長として、一千四百人の村民の生命と財産を守り、村民の生活安定を図る立場から、時雨山案白紙撤回は断腸の思いで受け止めながらも、東京都が弱者の痛みを理解した上で、引き続き空路の開設を願うものである。

#### 二、今後の空港建設に関する考え方について

先にも述べたとおり、返還から三十三年、東京都は空路に関し様々な調査・検討を行い、その中で硫黄島経由案や水上飛行艇案なども検討されてきた。これらの案を自ら否定してきたが代替案として再度提案することには、大きな疑問を抱かずにはいられない。

そして、安易に案を示すのではなく、兄島や時雨山の轍を踏むことなく、熟度のある調査を行っていただきたい。私たちはこれまでにも空路は望みはしたが、その設置場所などを要望したことはなかった。当面は平成十六年度就航予定のテクノスパーライナー（TSL）により、海路の改善が行われる。しかし、毎日の足となりうる空路は、TSLによって代替されるものではない。

空路は必要との大前提のもと、東京都の責任において、その実現性などを十分に調査検討していただき、実現可能な空路案を提示するよう、ここに強く訴える。

平成十三年十一月十四日

小笠原村長 宮澤 昭一

# 東京都の小笠原空港計画撤回を報じる各社新聞記事(抜粋)

## 小笠原空港計画撤回

### 宮澤村長落胆 「怒り通り越した」

小笠原空港は「破算」。都が十三日に計画の撤回を正式決定した「小笠原空港建設計画」の壁となったのは、石原慎太郎知事の強い意向だった。石原知事は現地視察した昨秋以降、「あそこ(時雨山)でできつない」など否定的見解を繰り返して、計画撤回の流れを作り出した。一方、同日の都市町村協議会出席のため、都庁にいた小笠原村の宮澤昭一村長は悲しみを怒りも通り越した気持ちで語り、落胆の表情を浮かべた。

# 知事の強い意向反映

産経

## 希望の灯消さないで

### 村長「論議不十分」と指摘

毎日

小笠原諸島父島・時雨山周辺での空港建設計画が正式に撤回された13日、宮澤昭一・小笠原村長は都市町村協議会出席のため訪れた都庁で、「時雨山の事はついでだが、空港は長年の悲願であり、時間をかけてもいかに希望の灯を消さないでほしい」と語った。

都は十三日、関係局長一批判。その後も「べき」を進めていた。過去に「振興推進本部会議を開く。自然環境への影響と事業費増加から一時雨山周辺域での空港建設は困難」と結論づけた。

## 「飛行場の灯が消えた」

都が十三日、小笠原諸島・父島の時雨山周辺で建設計画の撤回を決定した。村長「環境問題分るが約束は」

都が十三日、小笠原諸島・父島の時雨山周辺で建設計画の撤回を決定した。村長「環境問題分るが約束は」

## 小笠原空港計画の経緯

3年11月	国の第六次空港整備五カ年計画で予定事業に
7年2月	予定地を兄島(無人島)に決定
8年1月	環境庁が環境保護の観点で兄島案に反対表明
12月	国の第七次空港整備で継続事業に
10年5月	予定地を父島の時雨山周辺域に決定
12年10月	石原知事が現地視察、計画に難色
13年5月	「多数の希少動植物を確認した」とする環境現況調査結果を公表
10月	小笠原自然環境保全対策検討委員会が環境保全是「極めて困難」とする意見書を提出

## 小笠原空港計画を撤回

# 「利便性」「保護」で模索続く

### 村長は働きかけを続行

都が小笠原・父島の時雨山での空港建設計画を撤回したことに對し、小笠原村の宮澤昭一村長は都庁で記者会見を開き、今後も空港の建設を都に働きかけていく方針を明らかにした。小笠原港が国の空港整備計画に正式に盛り込まれて10年。「住民の利便性」を「自然保護」の面立を。自衛隊・硫黄島基地の飛行場利用、八丈島空港の接統、飛行場の使用など模索が続く。

## 小笠原空港 都が建設撤回

東京都は十三日、小笠原諸島・父島の時雨山周辺での小笠原空港建設計画について、環境への影響や事業費の増加により「建設は困難」と判断、計画の撤回を決定した。

## 東京都

東京都は十三日、小笠原諸島・父島の時雨山周辺での小笠原空港建設計画について、環境への影響や事業費の増加により「建設は困難」と判断、計画の撤回を決定した。